

# 平成 30 年度 事業報告書

# 目 次

## I 法人の沿革及び概況

- 1 法人の沿革及び概況
- 2 役員・教職員の概要

## II 事業の概況

- 1 法人事業の概要・実績
- 2 静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部事業の概要・実績
  - 2-1 静岡英和学院大学事業の概要・実績
    - (1) 学部・学科・入学定員及び学生数
    - (2) 教育研究方針及び主な事業実績
    - (3) その他
  - 2-2 静岡英和学院大学短期大学部事業の概要・実績
    - (1) 学科・入学定員及び学生数
    - (2) 教育研究方針及び主な事業実績
    - (3) その他
- 3 静岡英和女学院中学校・高等学校事業の概要・実績
  - (1) 学科名、入学定員及び生徒数
  - (2) 教育方針及び主な事業実績

## III 財務の状況

- 1 当該年度の決算の状況
- 2 財務の経営比率

## I 法人の沿革及び概況

### 1 法人の沿革及び概況

学校法人静岡英和学院の創立は、日本が近代化に向けて様々な模索をしていた明治20(1887)年に遡る。当時教育の機会に恵まれていなかった女子に対し、静岡の地において高い知性と教養を与えることを目的に、静岡メソジスト教会の日本人牧師の提唱に当時の静岡県令等の地元有力者が賛同支援し、カナダ・メソジスト婦人宣教会の積極的参加を得て創立された「静岡女学校」をルーツとしている。

戦争を始めとした様々な時代的背景による苦難を乗り越えながら、キリスト教に基づく人間教育によって、建学の精神と言うべき「愛と奉仕」の心を持つ人材を輩出し、静岡の地において確たる地位を着実に築いていった。

太平洋戦争直後の昭和22(1947)年には新制の中学校として、翌昭和23(1948)年には新制の高等学校として当時の文部省より認可を受け、創立時の精神を受け継ぎつつ、新たな時代へと船出した。

高度経済成長期には、女子への高等教育の要望が静岡の地でも急速に高まることとなり、この時代的な趨勢を受けながら、当時の院長等学院関係者の努力のもと、建学の精神のさらなる進展のため、昭和41(1966)年に短期大学が設置され、以降、高等教育の分野でも、静岡の地を中心に教養豊かな人材を輩出していった。

時代は21世紀となり、4年制大学への進学が一般化する。また、創立時からの男女平等の思想は、高等教育における共学化を求める機運へ発展していった。こういった時代的趨勢に因應するため、平成14(2001)年に4年制大学を設置し、従来の短期大学を短期大学部として改組した。

静岡英和学院は時代の荒波にさらされながらも、建学の精神に基づくことで、ある時は柔軟に、ある時は確固としてその位置を守り、静岡の地に根をはって教育を行ってきた。現在も少子化という荒波にさらされ苦難の中にあると言えるが、創立時から130年以上脈々と受け継がれる建学の精神を守りながら、時代に即した教育活動を行っている。

静岡英和女学院中学校(昭和22年認可)

静岡英和女学院高等学校(昭和23年認可)

静岡英和学院大学短期大学部(昭和41年設置、平成14年校名変更)

静岡英和学院大学(平成14年設置)

2 役員・教職員の概要(平成 31 年 3 月 31 日現在)

理事 (定数 15~16)	監事 (定数 2)	評議員 (定数 31~33)
15	2	31

・教職員等

静岡英和学院大学

学 長	副学 長	教 授	准教 授	講 師	助 手	事務職員	合 計
(1)	1	18	10	4	1	29	63

静岡英和学院大学短期大学部

学 長	副学 長	教 授	准教 授	講 師	助 手	事務職員	合 計
1	(1)	5	6	2	2	(29)	16

静岡英和女学院高等学校中学校

校 長	教頭	専任教員	常勤講師	事務職員	合 計
1	2	21	5	8	37

ただし、事務職員のうち 1 人は出納室員で、池田キャンパスに勤務

事務局

理事長	院長	事務局長	合 計
1	(1)	1	2

※ ( )は兼務者

【参考】 学生・生徒募集状況の概要(令和元年5月1日現在)

静岡英和学院大学

		1年	2年	3年	4年	計
人間社会 学科	収容定員	130	130	140	140	540
	<b>在籍者数</b>	<b>221</b>	<b>112</b>	<b>123</b>	<b>93</b>	<b>549</b>
コミュニティ福祉 学科	収容定員	80	120	120	120	440
	<b>在籍者数</b>	<b>44</b>	<b>45</b>	<b>40</b>	<b>60</b>	<b>189</b>
計	収容定員	210	250	260	260	980
	<b>在籍者数</b>	<b>265</b>	<b>157</b>	<b>163</b>	<b>153</b>	<b>738</b>

静岡英和学院大学短期大学部

		1年	2年	計
現代コミュニケーション 学科	収容定員	100	100	200
	<b>在籍者数</b>	<b>93</b>	<b>99</b>	<b>192</b>
食物 学科	収容定員	80	80	160
	<b>在籍者数</b>	<b>51</b>	<b>62</b>	<b>113</b>
計	収容定員	180	180	360
	<b>在籍者数</b>	<b>144</b>	<b>161</b>	<b>305</b>

静岡英和女学院高等学校

	1年	2年	3年	計
収容定員	120	120	120	360
<b>在籍者数</b>	<b>84</b>	<b>85</b>	<b>78</b>	<b>247</b>

静岡英和女学院中学校

	1年	2年	3年	計
収容定員	120	120	120	360
<b>在籍者数</b>	<b>63</b>	<b>69</b>	<b>58</b>	<b>190</b>

## II 事業の概況

### 1 法人事業の概要・実績

#### (1) 理事会等の開催

定例理事会 2 回開催	13 議案を審議した。
臨時理事会 1 回開催	9 議案を審議した。
定例評議員会 2 回開催	10 議案を審議した。
臨時評議員会 2 回開催	5 議案を審議した。
常任理事会 11 回開催	理事会、評議員会提出議案並びに当面する諸問題について審議した。
対話集会 1 回開催	円滑な評議員活動に資するため、学院の諸状況についての意見交換を行った。

#### (2) 予算編成及び決算

- ア 当年度収支が均衡する予算編成に努めた。
- イ 予算管理を厳正に行い財政の健全化に努め、契約の見直し、相見積の徹底等によるコスト削減を図った。
- ウ 財務と経営の透明性を図るため、分かり易い情報公開に努めた。

#### (3) 各種調査・報告書の作成及び提出

- ア 平成 30 年度私立学校(中学・高校)実態調査(6月 静岡県)
- イ 平成 30 年度学校法人基礎調査票(5月・6月 日本私学振興・共済事業団)
- ウ 平成 30 年度学校法人実態調査書(7月 文部科学省)
- エ 経営改善状況報告(7月 文部科学省)

#### (4) 学院広報誌「メイプル通信」の発行

年1回発行(12月)

#### (5) 学校法人静岡英和学院のホームページ(URL <http://www.shizuoka-eiwa.jp>)の運営

#### (6) その他

- ア 永年勤続職員の表彰(11月)

## 2 静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部事業の概要・実績

### 2-1 静岡英和学院大学事業の概要・実績

#### (1) 学部・学科・入学定員及び学生数(平成31年3月31日現在)

##### 人間社会学部

	入学定員	1年	2年	3年	4年	計
人間社会学科	130 (10)	112	110	85	109	416
コミュニティ福祉学科	120	45	37	52	63	197
計	250 (10)	157	147	137	172	613

※カッコは三年次編入学定員外数

#### (2) 教育研究方針及び主な事業実績

##### ア 教育研究方針

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学問研究及び教育の機関として責任を伴う自由で自立した人格を形成するとともに、キリスト教の愛と奉仕の精神をもって、地域社会と人間社会に貢献する国際的感覚の豊かな人材を育成することを目的としている。

##### 人間社会学部

本学部は、人間と社会との有機的関連を総合的に探求、教育し、人々が共存・共生できる社会を構成する自主性に富んだ人格の形成を目指す。各学科の教育目的は次のとおりである。

##### 人間社会学科

グローバル化時代における社会とその形成者としての人間のあり方を総合的に問い、社会と人間及び文化への理解を深め、適切な判断力、実践力、コミュニケーション能力を育成する教育を行う。

##### コミュニティ福祉学科

誰もが全ての人権と基本的自由が保障され、地域で自分らしい生活を人生の最後まで送ることができる地域共生社会の実現を目指して、豊かな人間性をもって対人援助と地域の福祉に貢献するための力を育成する教育を行う。

## イ 事業実績

### (ア) 本学の教育理念とキリスト教教育

新生を対象とするスチューデント・リトリートで、キリスト教主義大学としての建学の精神、基本理念を確認するとともに、大学生活を始めるに当たってのオリエンテーションを実施した。

また、チャペル・アッセンブリー・アワー、宗教センター、ボランティアセンターの活動、卒業礼拝等を通して、本学の教育理念が学生に体得されるよう努めた。

関連する行事は次のとおりである。

#### ・学院創立記念礼拝

平成30年 11月 21(水)

講師：加藤寛幸氏(国境なき医師団(MSF)日本会長)

メッセージ:「なぜ僕はフィールドに向かうのか」

#### ・クリスマス礼拝

平成30年 12月 19(水)

講師：大坪 哲也(本学宗教主任)

クリスマスメッセージ:「星空の大合唱」

#### ・卒業礼拝

平成 31年 3月 14日(木)

講師：田主 忠信(日本キリスト教団牧師)

メッセージ:「もうひとつの灯火をして一人生の補強工事」

### (イ) ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の充実

教職員の FD(教員の能力向上のための実践的方法)、SD(教員・職員、組織の資質向上のための取組)の一環として教職員研修会を行い、キリスト教主義大学としてのアイデンティティ形成、大学教育の質保証等についての共通理解を持つことに努めた。

#### ・第1回教職員研修会(FD)

平成 30年 9月 12日(水)

内容:「障害のある学生の理解と支援～差別解消法を踏まえて～」

講師:海野 智子 氏

(静岡大学学生支援センター障害学生支援部門

障害学生支援室「修学サポート室コムニス」准教授)

教職員 70人参加

・第2回教職員研修会(SD)

平成31年3月14日(木)

内容:「キリスト教主義大学の使命とメソジストの精神」

講師: 田主 忠信 氏(日本基督教団牧師)

教職員 51 人参加

(ウ) 公開講座、フォーラム、学会、特別講演会等の開催

・大学・短期大学部共催 公開講座

(第1回目はオックスフォード大学 デニス・ノーブル先生による講演)

平成30年10月19日(金)より平成31年2月2日(土)

出席者総計 312 名

・公益財団法人静岡県国際交流協会主催 アース(明日)カレッジ2018

平成30年7月15日(日)

出席者数 22 名

・静岡市・5大学連携事業 市民大学リレー講座

平成30年10月6日(土)

出席者数 38 名

(エ) 国際交流及び国外研修

・フィリピン語学(英語)留学(30日間) 1人

・海外福祉現地(モンゴル)研修留学(5日間) 7人

(オ) 教員による競争的研究資金採択研究活動等

人間社会学科

波多野 純 教授(科学研究費挑戦的萌芽研究)

課題名「擬人化研究の知見を応用した心理的問題の理解と共有を促す技法の開発」

谷口 ジョイ 准教授(科学研究費若手研究)

課題名「海外の小規模自助グループにおける継承語としての日本語教育」

崔 瑛 准教授(科学研究費若手研究)

課題名「観光分野における起業家の育成と支援に関する研究」

蔡 佩青 准教授(科学研究費基盤研究(C)分担金)

課題名「コーパスを活用したテキスト校訂・解釈の研究」

谷口 ジョイ 准教授(科学研究費基盤研究(C)分担金)

- 課題名「対話を通じた第二言語ライティング能力の育成」  
 崔 瑛 准教授 (科学研究費基盤研究(C)分担金)  
 課題名「観光振興のための TID 制度の導入可能性とビッグデータを用いた計画支援に関する研究」  
 毛利 康秀 准教授  
 (ふじのくに地域・大学コンソーシアム ゼミ学生地域貢献推進事業)  
 課題名「空き店舗の実態調査及び空き店舗活用事例による地域振興策研究」  
 毛利 康秀 准教授  
 (ふじのくに地域・大学コンソーシアム ゼミ学生地域貢献推進事業)  
 課題名「若年層におけるアジのひもの消費拡大に向けたメニューの提案と活用法」  
 谷口 ジョイ 准教授  
 (ふじのくに地域・大学コンソーシアム 共同研究助成事業(共同研究者))  
 課題名「中国・タイにおける日本産抹茶の販売促進に関する調査研究」  
 金 承子 准教授 (しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業)  
 課題名「留学生の地域 (自治会等) との関わり方の検討について」  
 崔 瑛 准教授 (しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業)  
 課題名「用宗港なぎさ市を通じた用宗地区の活性化」  
 市原 乃奈 講師 (しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業)  
 課題名「若者へのエイズ予防啓発及び HIV 検査の周知」  
 崔 瑛 准教授 (公益財団法人放送文化基金)  
 課題名「コンテンツの活用による観光振興のあり方に関する研究」  
 伊藤 真利子 准教授 (公益財団法人かんぼ財団)  
 課題名「経済成長と進学率上昇—学資保険による日本の経験と新興工業国へのモデル化—」

#### コミュニティ福祉学科

- 高阪 悌雄 教授 (科学研究費基盤研究(C)(一般))  
 課題名「障害基礎年金制度の成立背景の明確化及び現行の障害者所得保障の問題改善について」  
 玉井 紀子 准教授 (科学研究費挑戦的研究(萌芽)分担金)  
 課題名「就職困難学生の自己肯定感と保護者の認識、およびトライアル育成に関する調査・研究」  
 高阪 悌雄 教授 (公益財団法人ユニバーサル財団 研究助成)  
 課題名「障害基礎年金制度成立背景と現状の課題」

(カ) 学科の重点事業

人間社会学科

- (1)社会人基礎力を身につけるための「I+brand」プロジェクトのシステムづくり
  - ・「自己ブランドノート」(ポートフォリオ)の作成
  - ・学業及び社会人基礎力を把握するための自己 PDCA
  - ・ビブリオバトルによる総合能力育成
- (2)キャリア形成支援とキャリア教育のシステムづくり
  - ・「インターンシップ I・II」の履修を推進することによるキャリア形成
  - ・資格・検定の取得に向けた対応科目及び支援科目の整備
- (3)グローバル人材育成における英語力向上のシステムづくり
  - ・英語力向上に向けた履修体制の整備(習熟度別クラス編成によるグローバルスカラシップ入学生への支援等)
  - ・英語力向上に向けた学習環境の整備(英語学習ラウンジ NEST の効果的運用)
  - ・e-learning による英語自己学習システムの導入
- (4)留学生への学習支援
  - ・「基礎演習 I」「日本語表現法」「日本語読解法」における留学生習熟度別クラス編成等の運営
- (5)地域貢献事業への参加の推奨
  - ・ゼミ利用による地域貢献型事業への参加
  - ・学生の PBL 授業「観光地域フィールドワーク論」「観光産業特論 I・II」の導入
- (6)公認心理師(国家資格)受験資格対応カリキュラムの整備

コミュニティ福祉学科

- ・学科内のコースを社会福祉コース、保育・幼児教育コース、福祉心理コース(新設)の3つに分け、学科の特徴を明確に打ち出し、「心理」に強い社会福祉士また保育士・幼稚園教諭の養成を目指した。
- ・社会福祉士国家試験の対策として、講座のみならず模擬試験も実施してきたが、保育士養成においても、公立幼稚園・保育園採用試験対策のための模擬試験を実施した。
- ・社会福祉士国家試験対策講座を実施し、全国平均合格率(29.9%)を上回る合格者であった(9人受験、3人合格、33.3%)。
- ・1年次基礎演習で、全クラス合同で PBL を実施した

### (3) その他

#### ア 大学運営

##### 大学経営会議

前年度に引き続き、大学経営会議の充実を図った。学長、副学長、人間社会学部長、短期大学部部長、各学科長、宗教主任、事務部長、企画部長、学務部長及び議題により教務部長を加えたメンバーで構成し、大学の経営、運営に関する諸問題について検討を行い、必要に応じ大学評議会、教授会等に諮った。平成30年度は12回開催。

#### イ 学生支援関係

- ・学生一人ひとりに対する支援を意識し、個別面談や個別指導を充実させ、学生のキャリア支援に努めた。
- ・キャリア支援・就職支援講座、各種検定試験（秘書検定、サービス接遇検定、日本語検定、TOEIC）、「保護者ができる就職支援セミナー」、学内企業説明会、出張ハローワーク相談会、業界勉強会、留学生就職対策講座による就職支援を実施した。
- ・学生の日常的活動（サークル活動、学生大会、学園祭（楓祭）、ボランティア活動、地震防災・火災避難訓練等）の支援、指導を行った。
- ・外国人留学生の学費減免、学業・生活相談の他、独自交流事業の企画・運営及び外部団体の奨学金や交流事業の紹介を行った。

#### ウ 学生募集

- ・入学者数は、2015年度の350名をピークに減少傾向が続いていたが、一昨年度、昨年度と若干ではあるが増加し、回復傾向を見せ、2018年は大学・短大部合計で409名と大幅に増加した。全国的な文高理低による文系人気、首都圏の大規模私大の定員厳格化に加え、常葉大学の草薙キャンパスの開設による東部地区から中部地区への受験生の流入などのいくつかの要因に加え、これらの流れを掬うための入試制度や高校訪問の変更などが功を奏したと考えられる。
- ・コミュニティ福祉学科の入学者の減少は相変わらず続いているが、これは全国的な傾向でもある。殊に「保育士・幼稚園教諭」コースでは、2018年度に常葉大学が草薙新キャンパス開設に当たり保育学科定員を増員したこと。また、2019年度から静岡福祉大学のこども学部こども学科で小学校教諭養成課程をスタートしたことなども、県内進学者を中心とする本学では、入学者確保に大きな影響が及んだ。コミュニティ福祉学科の定員は平成31年度入学者より80名（社福コース、幼保コース各、福祉心理コース）に減員となるが、幼保系の就職先は売り手市場となっていることや、国家資格として新たに創設された公認心理師への注目が高校生で高まっていることら、潜在的な志望者はあると考えられる。また、公立高校で福祉学科を設置する清流館高校と福祉系への進学が多い清水西高校との教育提携の締結が実現した

が、これを足掛かりに、私立高校で福祉学科を設置する静岡女子高校、知徳高校との教育提携の締結を視野に入れながら定員充足を図っていく。

- ・留学生は大学・短大部合計で 89 名となった。一昨年度 53 名、昨年度 61 名と年々増加している。殊に今年度は専門学校との教育連携の締結と留学生入学試験の回数増加を行った。また、今年度も県外への広報を行っていることから、県外の日本語学校からの入学生を確保できた。
- ・3年次編入生は 17 名、昨年度 14 名、一昨年度 5 名と留学生を中心に増加傾向にある。コミュニティ福祉学科では、福祉制度がこれから進展すると考えられる東南アジア系の留学生を、積極的に確保するなど、日本の先進的な福祉を編入学の広報にも活用していく必要がある。
- ・本学に受験を考える高校生等と直接接触するオープンキャンパス、会場ガイダンス、各高校での模擬授業や面談指導は学生募集の重要な広報活動であるため、各学科の教員、事務職員が連携して対応している。また、今年度からは、学部学科の教員にも呼びかけ会場ガイダンスに参加の依頼をする。

#### エ 建学の精神の徹底

学生、教職員に本学の建学の精神が浸透するための努力が今後とも望まれる。特に教職員の本学の教育方針に対する積極的な参加が求められる。

#### オ 連携協定関係

##### 平成 30 年度新規連携先

- ・静岡県椎茸商業協同組合（連携及び協力に関する協定）  
平成 30 年 7 月 2 日
- ・プロスペラ学院ビジネス専門学校（包括連携協定）  
平成 30 年 12 月 19 日
- ・西日本アカデミー航空専門学校（包括連携協定）  
平成 30 年 12 月 19 日
- ・専門学校アートカレッジ神戸（包括連携協定）  
平成 30 年 12 月 19 日
- ・静岡県立清流館高等学校（包括連携協定）  
平成 31 年 2 月 27 日
- ・静岡県立清水西高等学校（包括連携協定）  
平成 31 年 2 月 27 日
- ・森永乳業株式会社静岡支店（連携及び協力に関する協定）  
平成 31 年 3 月 7 日

## 2-2 静岡英和学院大学短期大学部事業の概要・実績

### (1) 学科・入学定員及び学生数(平成31年3月31日現在)

	入学定員	1年	2年	計
現代コミュニケーション学科	100	93	83	176
食物学科	80	58	60	118
計	180	151	143	294

### (2) 教育研究方針及び主な事業実績

#### ア 教育研究方針

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、キリスト教の精神に基づき、豊かな教養と実際に役立つ専門の学術を授けることを目的とする。

#### 現代コミュニケーション学科

人と人をつなぎ社会を発展させるコミュニケーションについての教育研究を目的とし、幅広く豊かなコミュニケーション能力と、社会において活躍し得る実務能力を養うための教育を実施する。

#### 食物学科

栄養と健康についての教育を目的とし、科学的な思考力や実践力をもって社会に貢献できる食の専門家を育成する。

#### イ 事業実績

##### (ア) 本学の教育理念とキリスト教教育

大学に同じ

##### (イ) FD、SD の充実

大学に同じ

##### (ウ) 公開講座、フォーラム、学会、特別講演会等の開催

大学に同じ

##### (エ) 国際交流及び国外研修

・韓国ペジエ大学サマースクール(11日間) 8人

(オ) 教員による競争的研究資金採択研究活動等

食物学科

前田 節子 教授

(静岡市産学交流センター 地域課題に係る産学共同研究委託事業(連携大学))

課題名「省力的石垣イチゴ栽培技術と端境期用商品の開発」

(カ) 学科の重点事業

現代コミュニケーション学科

- ・授業内容やカリキュラムの見直しを引き続き行った。
- ・企業との連携を強化し、外部での行事に積極的に参加した。
- ・焼津市の観光振興に関する産学官連携基本協定を締結し、それに伴う行事・作業を実施した。
- ・学生を行事に参加させるシステムの構築を引き続き行った。

食物学科

- ・初年次教育の充実のため基礎科学関係の科目の充実を図った。
- ・業者による「入学前教育プログラム」を導入し、学習習慣の定着を促した。
- ・前年に引き続き給食管理実習Ⅱに関し一定の基準を設定し、それに基づく学生指導を行った。
- ・静岡大学農学部との単位互換を、前年度に引き続き積極的に行った。
- ・全国栄養士養成施設協会認定栄養士実力試験を実施し、学修効果の可視化をはかった。
- ・管理栄養士国家試験受験準備講座を実施した。
- ・栄養士資格に加え、フードスペシャリスト受験資格並びにフードサイエンティスト認定資格の取得を推進し、Wライセンス制度について広報した。
- ・平成30年度静岡市「しずおかカラダに eat75」事業に静岡県立大学、常葉大学とともに学生が参加した。
- ・平成30年度産学共同研究委託事業として、するが夢苺株式会社の「省力的石垣イチゴ栽培技術と端境期用商品の開発」を、静岡大学農学部とともに行った。
- ・静岡県椎茸商業組合及び森永乳業株式会社静岡支店との協定の締結により、企業との連携をより強化し、講義や実習の充実を図った。
- ・静岡市水産漁業かとの取り組みで「しずまえ鮮魚あったかレシピ」が静岡市内全戸に配布された。
- ・静岡ガスによる食育イベントに学生、卒業生が参加した。

・C.P.A チーズ検定受験を推奨し、10人が合格した。

(3) その他

大学に同じ

### 3 静岡英和女学院中学校・高等学校事業の概要・実績

#### (1) 学科名、入学定員及び生徒数（平成 31（2019）年 3 月 31 日現在）

##### 中学校

	入学定員	1 年	2 年	3 年	計
普通科	120	71	58	76	205

##### 高等学校

	入学定員	1 年	2 年	3 年	計
普通科	120	85	78	64	227

#### (2) 教育方針及び事業計画

##### ア 教育方針

キリスト教主義を基底とした建学の精神に拠り、学院聖句にある「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の教えに誠実に向き合い、「愛と奉仕」の実践と一人ひとりの生徒の個性と可能性を育てることを教育方針とした。

##### イ 教育目標ならびに重点項目

建学の精神に基づいて次に示す女性を育成することを教育目標とした。

- (ア) キリスト教の倫理観に基づいた「愛と奉仕」を実践する女性
- (イ) 教養を身につけ、人と社会に奉仕できる女性
- (ウ) グローバル社会にあって国際的に活躍できる女性
- (エ) 英和生として期待される「尊き責務」(noblesse oblige)を実践できる女性
- (オ) 高い教養と知識を生かし、社会における自らの役割を担える女性

##### ウ 教育理念に基づく特徴ある教育活動計画

##### (ア) 充実した6年制一貫教育

- ・ 6年制一貫教育のもと、2年間で1タームとした基礎・充実・発展期の目的に沿った教育活動の充実に努めた。
- ・ 生徒一人ひとりの発達段階における興味、関心、意欲と理解度に合わせたテラー・メイド教育を推進した。
- ・ 平成 32(2020)年の大学入試制度改革と学習指導要領の改訂(中学校は平成 33(2021)、高等学校は平成 34(2022))に伴う授業改善を行い、思考力・判断力・想像力と発表力を育成するために、生徒が主体となる授業とICT教育の推進により、言語活動を充実させた深い学びとなる授業を行った。
- ・ スタンダード、アドバンスコースを充実させるため中学生は週 34 単位とし、高校からはグローバルコースを加えて週 34～36 単位となるカリキュラムに改編した。

- ・ 留学コースの対象を中学2年生から高校2年生までの4学年に拡大し、国内英語セミナー、2週間から10ヶ月の海外研修までの7コースに拡充することで語学教育と国際理解教育を推進した。

また、カナダのブリティッシュ・コロンビア州の公立校 Claremont Secondary School や私立校の St. Andrew's school を派遣校として選定し、2名の生徒を派遣した。

- ・ 静岡ツーリズム・ビューローと連携し、国際理解教育と外国人とのコミュニケーション能力の向上を積極的に推進した。
- ・ 自学自習プログラム(ESP/EDP)を実施し、基礎学力の定着、学力の伸長を図り、2018年度においては、電子教材を活用した授業を展開した。
- ・ 一人ひとりの生徒の活動記録(データ)を教育支援に生かした教育を行った。
- ・ 安全で安心して学べる学習環境の充実による学校教育力の向上を促進した。
- ・ 全教職員による校内パトロールにより、施設の安全性の確保に努めた。

#### (イ) 基礎期(伸び伸びホップ)

中学1年生は早い時期から規則正しい生活習慣を身につけることを励行し、基礎学力の定着と学習と部活動の両立を目指した。中学校2年生からは、タブレット端末によるICTを活用したアクティブ・ラーニングを積極的に展開した。アドバンスとスタンダードの2コースに分かれたクラス編成となり、英語と数学に関しては習熟度授業を行った。また、充実した留学制度による国際理解教育も実践した。

中学2年生は5月に英語キャンプを実施し、英会話の習得に努めた。

#### (ウ) 充実期(生き生きステップ)

中学3年生と高校1年生を対象とし、思考、判断、想像力を養い、応用力を育成した。

新たな大学入試制度に適応した学習とタブレット端末を活用したアクティブ・ラーニングを推進し、生徒自らが考え、発表する生徒主体の授業と自らの考えを発表するプレゼンテーション能力の向上に努めた。また、高校1年生より、アドバンスコース(医歯薬系、特進系)、グローバルコース(国際系)とスタンダードコース(総合系、看護系)に分かれた授業を行い、メディカル・プログラム、英和学(第二外国語、日本の伝統文化教育)と女性学(女性の社会貢献、キャリア教育)等の各コースに合わせたプログラムを学んだ。

中学3年生は、台湾スタディ・ツアーを実施し、早い機会での海外経験を活かした国際理解教育を推進した。

#### (エ) 発展期(自信満々ジャンプ)

文章力と発表力を充実させ、論述問題や難解な問題にも対応できる学習力の鍛錬を行い、個別補習や個別指導等による第一希望の進路実現を行った。さらに、国際的な視野をもち、多様性を理解し、自らの人生を切り拓く自己実現力を養った。

各コースに付随した3つのプログラム

中学校入学時より、学習の習得状況により2つのコース別のクラス編成とした。高校1年より、アドバンスコースは医歯薬系、特進系に分かれ、医学部、歯学部、薬学部や国公立

大学と私立難関大学に進学する生徒に対応したカリキュラムとし、スタンダードコースは、グローバル(国際系)とスタンダード(総合系、看護系)の希望進路に即応したカリキュラムとした。

a メディカル・プログラム

アドバンストコースの医歯薬系を対象とし、医師・歯科医・薬剤師による実験、講演、病院での実習、大学訪問、特別補講などの受験対策を行った。

b グローバルプログラム

キャリアプログラム(大学を知ろう)、英和学(英語以外のアジア・ヨーロッパ言語、異文化理解と和 문화体験)、女性学(企業とのコラボレーション・マーケティング・地域開発によるキャリア教育や卒業10年後の自分像のイメージ)を学んだ。

c スタンダードプログラム

キャリアプログラム(大学を知ろう)、英和学として和 문화体験(華道・茶道・邦楽)と女性学(企業とのコラボレーション・マーケティング・地域開発によるキャリア教育や卒業10年後の自分像のイメージ)を学んだ。

(オ) 生徒の活動記録(データ)を教育支援に活かした教育

生徒の理解力を客観的に把握し、適切な指導を行うために次の外部テストを中学から高校において継続的に行い、その結果の追跡、評価を行った。

a 中学においては、中学の基礎、基本を確認するため4月領域別復習テスト(中学1年生)、全国学習状況調査(中学2・3年生)、11月学力推移調査(全学年)を実施、追跡資料を作成し、これに基づいて学力強化を図った。

b 高校においては、高校1年、2年で外部模試を、高校3年ではコースやそれぞれの進路別に複数の外部模試を実施し、そのデータを個別指導に活用した。

c 卒業までに英検2級の取得を目指す学習体制をとっている。また、英検2級に匹敵するGTECで600点の到達を目標に、読む・聞く・話す・書くことの4領域の伸長を目指した。

(カ) 国際理解教育

a メイプル・プログラム(カナダ5ヶ月間の語学留学)

静岡英和女学院の歴史は、英語教育の歴史でもあり、本プログラムでは、カナダの姉妹校への留学などを通じて、異文化を体験して、英語コミュニケーションの必要性を感じ取ることから、英語への好奇心をより一層喚起し、語学力だけでなく国際的に活躍できる広範な能力を育成した。多くの生徒に早い時期から海外経験を積ませ、地域、民族、文化に関わることなく、隣人を愛することを学ばせた。本年度はビクトリア(セント・マーガレット・スクール)に、4月から8月まで5ヶ月間実施した。また、平成27(2015)年度スタートしているニュージーランド3ヶ月語学留学も継続して実施した。

b カナダ・スタディツアー(研修旅行)

高校2年(メイプル・プログラム参加者を除く)を対象に、カナダの姉妹校訪問、ホームス

テイを中心とした語学体験ツアーを実施し、平成 30(2018)年度は5月9日(水)から16日(水)の日程で実施した。

c セント・マーガレット・スクールとの交換留学

姉妹校のセント・マーガレット・スクールから日本への留学生のホームステイ先を提供した中学3年生と高校1年生を優先して、3月に10日間程度の派遣を行った。

d カナダ姉妹校交流

「バルモラル・ホール・スクール」「セント・マーガレット・スクール」「ビショップ・ストローン・スクール」にそれぞれ休学留学、認定留学希望の生徒を留学生として派遣した。

e その他の一般留学も希望者があれば休学留学あるいは認定留学として許可を行った。

f カナダのブリティッシュ・コロンビア州の公立校 Claremont Secondary School や私立校の St. Andrew's school を派遣校として選定し、今後も2名程度の生徒派遣を行った。

g 県内の留学制度を活用した、短期留学等の応募の促進を図り、アジアに複数名の生徒を派遣した。

(キ) 高校募集

平成 25(2013)年度から再開した高校募集を引き続き1クラス分程度を目途に募集を行った。平成 31 年度生徒募集においては、30名の志願者と12名の入学者を得た。